

野路の一里塚碑

①誰が建てたか

- ・1604年徳川家康が建てた。

②どのように使われていたか

- ・旅人が木陰で疲れを癒す場所として使われた。
- ・4キロ毎にあり馬を駐めることができた。
今のバス停の様なもの



③歴史へのかかわり

- ・東海道にあり大名の参勤交代の時に4キロ毎ある休憩所として使われていた。
- ・江戸時代一里塚の設置とともに、街沿いに松を植えることを幕府が命じた。

理由、街道に日陰ができるようにできた。

④どのような場所か

- ・江戸時代の街道には、一里ごとに塚を築き、その上に大木が立つ「一里塚」がありました。街道を旅する人々にとって、一里塚は現在のキロポストと同様、里程の目印であり、さらに塚上の大木が作りだす木陰は、一服の休憩場所であったと言われている。

(引用サイト 東海道と宿場の施設)

関ヶ原の戦いで天下を手にした徳川家康が建てた

中央に樹木を植える決まりがあったので松が植えられていた

- 一里 = 36町
- 一町 = 約110m
- かけると約4km

野路の一里塚

• 旅人が木陰で休息をとるのに役立っていた

• 1601年～1604年に江戸に行くための交通運輸の整備を進めた

